

# 花と石の落ち着いた空間の設計・施工

## 1. はじめに

私たち造園緑化コース二年生は、これまでの講義や実習を通して造園に関する様々な技術、技能、知識を習得してきた。その集大成として自分たちで最初から設計し意見を深め合い、設計、施工の流れを経験するため制作を行った。

この施工場所は、以前は実習で植栽管理を行う花壇であったが、花壇の縁石となっているレンガが老朽化していたため再整備することとなった。

## 2. 設計

新型コロナウイルスの影響により対面で喋るときに気を使うことが増えている。そこで「落ち着いた空間」として相手を気にせず休憩できるようにするため一人ずつ座れる大きな石を配置した。石の椅子の周りには暖かみのある色のチャートを使用し、円形の石畳とした。椅子は段差をつけることで、違う目線から花壇を楽しむことができる。花壇の縁石は石畳と同じチャートを使用して、石積みとし、景観に統一感を出した（図-1）。

落ち着いた空間にするため、森の中にいるような自然を感じてもらいたいため、石は加工せず自然のままのものとした。



図-1 平面図

### 3. 施工

景石では小型クレーンで吊り上げ、石と石がうまく噛み合うように、また、石の表面に凹凸がある面を外側に向くように据え付けた。石畳では四ツ目地や通り目地に気を付けながら、水平になるように作業を進めた。それでも後から見返すと四ツ目地や通り目地があり、難しかった。花壇の縁石はチャートを積みながら施工したが、同じくらいの大きさの石が揃わないように注意し、目地の幅などにも気を付けた。花壇ごとで違う雰囲気にするために三つの花壇で花色を変えた。しかし、全部違う花ではなく外側にビオラ、内側にシクラメンを統一して植栽した。樹木の植栽では職員室前花壇に植栽されていた、ツゲ‘スカイペンシル’とシマトネリコを移植した。

石材を多く使用したことにより静かで落ち着く景観を作り出し、円形の花壇で優しい雰囲気を加え、硬い印象にならないように工夫した（写真-1）。



写真-1 完成写真

### 4. まとめ

これまで学んだことを生かしつつ、造園緑化コース専攻の全員で設計から施工までを一から自分たちで行った。設計では自分たちで落ち着く空間とはどのような庭か、意見を出し合い一人一つ案を作成することができた。今回の庭園では新型コロナウイルスの影響によって、変わった生活様式にあった庭園を施工することができた。施工では、石畳の敷き方や植栽方法などこれまで学んできたことを生かすことができた。さらに小型クレーンでの景石の据え方や樹木の移植など新しい技術や知識を学ぶこともできた。

今後の課題では、石積みを施工した際モルタルの詰め方が不十分で、次回施工するときに崩れてしまうことがあった。修復にも時間をとられ予定通りに進まないことがあったので、一つ一つの作業を丁寧にやることが大事だと実感した。

最後に制作を終えて設計から施工までの一連の流れを学べたことが、とてもいい経験になり、今後も技術、知識をさらに深めていきたい。